

地域保健

1
2023

●特集

ヤングケアラーを支援する



読者の皆さまへ

『地域保健』休刊のお知らせ

『地域保健』は2023年3月号をもって、いったん「休刊」とすることになりました。

1970年の創刊以来、半世紀以上にわたり全国の保健師をはじめとする公衆衛生関係者にご愛読いただきましたが、速報性に優れたネット動画や双方向性機能を持つSNSが普及する時代となり、印刷媒体の限界も見えてきたのではないかとの判断で、ここで一度休刊とすることが決まりました。長きにわたりご協力、ご支援くださいました皆さまに、この場を借りて厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

来春以降はネット空間に軸足を移し、新しい展開を図っていきます。具体的な内容については、ネット上で順次ご紹介していきます。ネット空間での「集い」やネットで発信した情報から、逆に新しい印刷媒体を生み出すなど、さまざまなチャレンジをしていく所存です。

今後とも、よろしくお願い申し上げます。

地域保健編集長

2022年7月号以降の定期購読料について

2022年7月号以降の定期購読をお申し込みの場合、購読料は下記のようになります。前納・後納・個人の区分は廃止します。

2022年7月号～2023年3月号（5冊）	6,781円（税込、送料弊社負担）
2022年9月号～2023年3月号（4冊）	5,425円（税込、送料弊社負担）
2022年11月号～2023年3月号（3冊）	4,068円（税込、送料弊社負担）
2023年1月号～2023年3月号（2冊）	2,712円（税込、送料弊社負担）

※2023年3月号のみの定期購読というのではなく、単品扱いとなります

※単品の価格については従来どおり（1,507円〈税込〉＋送料154円）

お申し込み

電話：03-5977-0300

ウェブ：<http://www.tkhs.co.jp>



イラストレーター・スズキトモコ

きりっと冷えた寒空を優雅に飛ぶ白鳥のように、2023年も空高く羽ばたいていきますように。

<http://www.tomo-com.com>

【特集】

6

ヤングケアラーを支援する

8 【鼎 談】 保健師がヤングケアラー支援でできること

〈出席者〉◎中板育美さん(武蔵野大学) = 司会

◎田中悠美子さん(立教大学)

◎南里真美さん(西九州大学)

24 【概 論】 ヤングケアラーの実態

田中悠美子(立教大学)

28 【ヤングケアラー経験者の声】 「何気ない話題で気遣い、声掛けを」

取材先: 高尾江里花さん(ヤングケアラー協会理事)

32 【北海道の取り組み】 条例のもとヤングケアラー支援を総合的に推進

小助川文治(北海道庁保健福祉部)

36 【山梨県の取り組み】 全国発の「ヤングケアラー支援ガイドライン」を策定

取材先: 芳賀栄彦さん(山梨県子育て支援局)

44 【高崎市の取り組み】 ヤングケアラーに代わり家事などを行うサポーターを派遣—ヤングケアラー SOS—

高崎市教育委員会事務局 学校教育課

48 【東京都江戸川区の取り組み】 児童相談所を中心に啓発と支援体制を強化

取材先: 田島 勉さん(江戸川区児童相談所)

2 ひよこ、ホップ、ステップ、ジャンプ! ▶ 伊藤朱里さん、新田美怜さん(大阪市住吉区 保健福祉センター)

66 活動報告 ▶ 中核市移行後の寝屋川市保健所における難病対策 福永優奈(寝屋川市保健所)
~課題抽出から事業化へ

70 ニュース ▶ 新たな「自殺総合対策大綱」が閣議決定
内閣府が自治体のこども政策の連携体制に関する調査結果を公表

78 ピープル ▶ サクラカツミさん(パフォーマンス・アーティスト)

90 情報BOX

96 次号予告/奥付

連 載

52 なな先生のことばの発達教室《第5回》/寺田奈々

56 東京保健師ものがたり《第11回》/和泉慶子

74 オンライン市役所だより《第11回》/栗林正司

76 ESSAY 国際保健《第53回》/松田正己

82 保健師のための閑話ケア《第104回》/藤本裕明

86 中臣さんの環境衛生ウォッチング《第89回》/中臣昌広



住民との関わりから学び
人生を支えられる保健師に

伊藤朱里さん 新田美怜さん

いとう・あかり

にった・みれい



● 大阪市住吉区保健福祉センター

「すみよっさん」の愛称で住民からも親しまれている住吉大社の反橋そりばし前にて。プライベートでも一緒に出掛けることが多いという息の合った伊藤さん（写真左）と新田さん（写真右）

サカクラカツミさん

●パフォーマンクス・アーティスト

みんなと「違う」は、誰にも真似できないこと
それを生かせる環境と人間関係をつくってほしい

いまや世界に認められるパフォーマンクス・アーティスト、サカクラカツミさん。武道の動きを取り入れ、映像とパフォーマンスを融合させたステージは見る人を圧倒する。集中すると周りが見えなくなる特性があり、「自分は普通じゃない」と不安を募らせていたが、ありのままを認めてくれる存在に助けられてここまでできたという。

●取材・文……………太田美由紀（ライター）

熱中できること自体が
素晴らしいこと

「小中学校の成績は、図工や美術だけで5で、あとは1と2ばかり。体育の授業も運動会も大嫌いでした。友達もいなかったの、学校から帰ってきたら遊びにも行かず、集中すると水も飲まずにずっと家で絵を描いたり粘土で動物を作ったりしていました」
テストはいつも100点満点でひとケタか10点台。家に帰って両親にそれを見せて

も怒られることはなかった。勉強しろとも言われない。ある日、前日に描いた絵を完成させたくて「お腹が痛い」と嘘をついた。母親には全てお見通しだった。

「あの絵が描きたくて学校休みたいたいならそう言わないといけないよ。お腹が痛いなら、何を食べさせたらいいかなってお母さん必死に考えなくちゃいけないんだから」

それ以降、絵を描きたい、粘土の続きがしたいと伝えるようになったら、母親は学校を休ませてくれるようになった。母親はい

つもサカクラさんの味方だった。校長に呼び出されて納得がいかず転校したこともある。小学校だけで4度変わった。

中学入学前、自分の世界に没頭し過ぎる自分は、ほかの人とかなり違うと気づき始め、不安や恐怖に襲われた。「自分は普通じゃない。このまま犯罪者になってしまいかもしれない」と思い詰め、打ち明けると、母親は笑顔でこう話してくれた。

「カツミは集中し始めたならご飯も食べないじゃない。そんなに熱中できること自体が

特集

若年性認知症の人への支援

◎概 論 若年性認知症の現状と課題

鷺見幸彦（認知症介護研究・研修大府センター センター長）

◎座談会 若年認知症の人とともに ～暮らしやすい地域をつくる～

<出席者> 永田久美子さん（認知症介護研究・研修東京センター）＝司会
 服部春香さん（和歌山県御坊市）
 石毛幸子さん（神奈川県大和市）
 小野寺 朗さん（わすれな草の会）

鼎談 1

児童虐待・高齢者虐待・障害者虐待に通底するもの

<出席者> 鷺山拓男さん（とよたまこころの診療所）
 和田忠志さん（医療法人実幸会いらはら診療所）
 野澤和弘さん（植草学園大学）

鼎談 2

こども家庭庁の設置で保健師の活動はどうなる？

<出席者> 中板育美さん（武蔵野大学）
 鈴木秀洋さん（日本大学）
 山本圭子さん（厚生労働省子ども家庭局母子保健課）

ひよこ、ホップ、ステップ、ジャンプ！ 清原千聖さん 瀬山未奈さん
 （呉市保健所地域保健課）

ピープル 仁科勝介さん（写真家）

活動報告 東京都港区の「健康測定事業」

寄 稿 聖隷福祉事業団の「SGE プロジェクト」

※変更になる場合がございますので、ご了承ください。

地域保健
 令和5年1月号

令和5年1月1日発行／隔月（奇数月）1回1日発行
 発行人 田中 義紀
 制作・発行 〒113-0021 東京都文京区本駒込2-29-22
 株式会社 東京法規出版
 振替 00160-1-371595

【購読の申し込み】 TEL 03-5977-0300
 FAX 03-5977-0385
 ウェブ www.chiikihoken.net

【内容の問い合わせ】 TEL 03-5977-0353 E-mail chiikihoken@tkhs.co.jp

◎表紙・本文デザイン＝新海妙子
 ◎印刷・製本＝（株）上野印刷所
 ◎編集長＝須賀健次
 ◎編集員＝松岡康子

本誌に掲載された著作物の
 複写・転載等の許諾権は、
 株式会社東京法規出版が保
 有しています。

バックナンバー紹介

2021年11月号

特集 「子どもの性と向き合う

—包括的性教育とプレコンセプションケアを踏まえて—

包括的性教育やプレコンセプションケアの視点から、保健師が子どもの性とどのように向き合ったらよいのかを考える。

座談会 「保健活動におけるデータとエビデンス

—EBPM、ICT、AIの時代に—

EBPM、ICT、AIの巨大な潮流の中で保健活動はどのように変わっていくのか。保健師業務におけるデータやエビデンスの扱いについて語り合う。

2022年1月号

新春座談会 「コロナ禍における統括保健師の役割

—不安と混迷の時代に—

非常時と日常が混在する中で、自治体保健師の取りまとめ役である統括保健師が果たすべき役割は何か。混迷の時代における統括保健師の役割について考える。

特集 「『高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施』の推進

—コロナ禍でいかに進めるか—

コロナ禍で対面交流事業が難しくなった。一方、自粛生活は高齢者の心身の機能を低下させる。コロナ禍における高齢者の健康づくりを保健事業と介護予防の一体的推進の立場から整理、自治体の好事例を紹介する。

2022年3月号

座談会 「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムと市町村保健師の役割」

通称「にも包括」と呼ばれる同システムの構築において、市町村保健師に期待されるものは何か。先進的な市町村の保健師と専門家が意見交換。

鼎談 「母子保健とコロナ禍」

コロナ禍における母子保健に焦点を当て、事業を進めるための工夫や乗り越えるべき課題、母や子の異変などについて語り合う。

2022年5月号

特集 「医療的ケア児と家族への支援」

医療的ケア児とその家族が地域生活を始めるとき、行政サービスにうまくつながるかどうかは、保健師の初期の丁寧な関わりが大きい。医療的ケア児とその家族の支援に関する保健師の役割について座談会や事例をもとに考える。

2022年7月号

座談会 「災害時の保健活動を再考する

—保健師が力を発揮するために統括保健師は何をすべきか—

災害時に保健師が本来なすべきことを整理しつつ、それらを妨げる要因を探り、保健師が効果的・効率的に力を発揮するための方策を統括保健師の立場から考える。

特集 「避難所の現状と課題

—保健師が知っておきたいこと—

国際的に見ればわが国の避難所対策はまだ課題がある。避難所の現状と課題という側面から、保健師が知っておきたいトピックを掲載する。

2022年9月号

特集 「誰も取り残さない災害支援と保健師」

—マイノリティへの健康支援をどうするか—

災害時要配慮者に焦点を当て、座談会と原稿執筆部分で構成。座談会では災害時要配慮者への支援で保健師に何が求められるのかを話し合い、各執筆項目では災害時要配慮者に求められる支援の特性を整理、保健師は何かできるのかを探る。

2022年11月号

特集 「コロナで増える休職・退職」

—保健師のメンタルヘルスをまもりたい—

新型コロナウイルス対応による長時間労働などにより、保健師の休職・離職が相次いでいる。座談会、インタビュー、取り組み事例の紹介などで、保健師のメンタルヘルスと休職・退職の問題に迫る。

※バックナンバーの価格

(2009年3月号まで) 837円(税込) + 送料154円

(2009年4月号～2016年3月号まで)

942円(税込) + 送料154円

(2016年5月号から) 1,507円(税込) + 送料154円

お申し込みは

(株) 東京法規出版 地域保健編集部

FAX : 03-5977-0385

『地域保健』定期購読のご案内

- 2022年7月号以降の年間定期購読料は、右記のようになります(税込)。前納・後納・個人の区分は廃止します。
- ▶ 2022年7月号～2023年3月号(5冊) 6,781円
- ▶ 2022年9月号～2023年3月号(4冊) 5,425円
- ▶ 2022年11月号～2023年3月号(3冊) 4,068円
- ▶ 2023年1月号～2023年3月号(2冊) 2,712円

※定期購読の送料は弊社が負担します

※単品の価格は従来どおりです

税込1,507円+送料154円

※2023年3月号のみの定期購読というのではなく、単品扱いとなります

お申し込み

電話 03-5977-0300

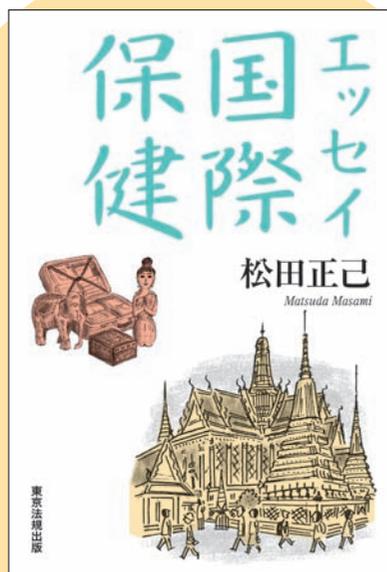
ウェブ <http://www.tkhs.co.jp>

新刊案内

エッセイ 国際保健

※本誌連載のエッセイが単行本になりました。

著者の松田正己氏は、長年、国際保健の現場で活躍し、現在は大学で教鞭をとる公衆衛生、国際保健の専門家。「保健」の任務で赴いた先々での体験を赤裸々にユーモラスなタッチでつづった、驚きあり、笑いありのエッセイ集。本誌 2015 年 4 月号から連載が始まった「ESSAY 国際保健」を第 50 回まで収録した。



四六判 / 160 頁 / 1,320 円 (税込み)
(株) 東京法規出版

全国の書店でお求めください。
ISBN978-4-924763-58-6 C3047



◎著者

松田正己 (まつだ まさみ)
東都大学沼津ヒューマンケア学部教授。神戸市生まれ。都立両国高校、東京大学医学部保健学科卒。同大学院医学系研究科修了(保健学博士、保健管理学)。タイ王立マヒドン大学アセアン PHC センター (現 AIHD) JICA 専門家、(財)結核予防会結核研究所国際研修科長、ジョージタウン大学ケネディ倫理研究所・客員(タケミ)フェロー、静岡県立大学看護学部教授、東京家政学院大学教授、京都大学地域研究統合情報センター客員教授を経て現在に至る。

発行元:  東京法規出版

〒113-0021 東京都文京区本駒込 2-29-22

TK011380

発行元: TEL: 03-5977-0300 FAX: 03-5977-0311 <https://www.tkhs.co.jp>